

「大学全入時代を迎えて」

第1回

新入生
座談会魅力ある
大学とは!!

大学は「選ぶ時代」から「選ばれる時代」に入った。

「魅力」を競い合う時代でもある。

サブイバルのため大学は改革への取り組みを急いでいる。

中央大学も例外ではない。

そこでシリーズで「大学全入時代を迎えて」と題し、

学生の目線してみた「改革」を取り上げる。

第1回は、新入生が中大の魅力、

不満、期待などについてフランクに語りあった。

出席者

泉秀 (文学部1年)

今子佳奈 (右同)

岩片理紗 (右同)

野村茉莉亜 (商学部1年)

和合俊祐 (法学部1年)

司会

学生記者

滝沢孝祐 (総合政策学部4年)

池内真由 (法学部3年)

高校との違いは、
自分で探し、求める

滝沢 入学から2か月程度経ちましたが、大学生活はどうですか？

野村 高校と違い、大学生になると自己管理が大切なと思います。毎回、講義で出席をとられるでもなく、「サボっちゃえ！」という人もいますしね。

泉 同じようなことですが、大学は高校と違って、やりたいことを自分で見つける必要があると思います。2か月経つのですが、自分はこの2か月間何もやっていなくて…。自分でどんどん積極的に何かをやらなくてはと思っているのですが、何をやっていいのかかわからず、焦っている感じがです。

岩片 私も4月は何もすることがなくて暇でした。大学は自分でしたいことを探さないとダメなんだと思って、サークルに入り、資格の勉強を始めました。少しは忙しくなったというか、充実してきたかなと思います。

和合 僕は「高校とあまり変わらないな」というのが印象です。高校が私服で、自由な校風だったからかもしれません、いい意味で簡単に溶け

込めたのかなと思います。高校からの続きみたいな感じで、楽しくやっています。

今子 和合君と同じで、私の高校は私服で、髪を染めても、ピアスをつけてもいい学校だったので、大学との違いはあまり感じません。また、文学部はクラス単位で授業を受けるので、その点も高校とあまり変わらない感じがします。

雰囲気、イメージで選ぶ 「法科の中央」が決め手

滝沢 数多くある大学の中で、なぜ中央大学を選んだのか？正直なところを聞かせてください。

今子 私は浪人していたこともあっていろいろな大学を受験したんです。明治や立教は家が近いです。MARCHでは中央の雰囲気がいいなと思って…。MARCHでは中央の雰囲気がいいなと感じました。

滝沢 雰囲気とは、どんな雰囲気ですか？

今子 私、都会が駄目なんです（笑）。なるべく都会から離れたいなと…。

和合 僕は将来、法曹界に進みたいと思っています。そのため法学部を受験したのですが、中央は「法科の中央」と言われているだけに、司法試験では有利になるかなと思って、進学を決めました。

岩片 将来はメディア関係に進みたいので社会学部などを受験したのですが、気がついたら文学部英文科に。英語がやりたかったわけではないので、正直あまり入学する気もなかったのですが（笑）。

泉 とりあえず、「中央」という名前は通っていますからね（笑）。浪人だったので、現役入学した友だちに様子を聞いたんです。話を聞くと、立教や明治ではなく、中央に行った友達が一番まじめというか。一般化は危険ですが、立教に行った友だちは遊んでいるのが多くて…。青山は土地柄的にも人ごみですし…。

岩片 そう、そう。渋谷駅前のスクランブル交差点とか、ちょっと怖いな（笑）。

泉 勉強に行く雰囲気じゃないですよ。やっぱり周りの雰囲気は重要じゃないですか。もちろん、どの大学でも図書館に入ればみんな勉強していますけど。

野村 高3の5月頃、高校にいろいろ





司会 滝沢孝祐

泉 それはある。かなりある。

岩片 高学歴志向が結構あった親も中央大学ならいい、と言ってくれました。

池内 中大は地方入試を行っていますが、地方入試があったので、受験しやすかったということはありますか？

岩片 はい。私は、もし地方入試がなかったら中大は受験していませんでした。

滝沢 受験地はどこですか？

岩片 名古屋、愛知県です。

和合 すげえ。地方入試があるなんて初めて知った(笑)。

泉 中大は複数の方式を受験しても受験料が一緒ですよ。それって受験生には得だよ。

地方入試があったから受験

滝沢 大学を選ぶうえでイメージが決め手になったんですね。

岩片 どのくらい名前が通っている大学というか。浪人していたので、変ところには行けないな、という感じでした。

豊かな自然が魅力

でも電車乗り換え5回

池内 大学のイメージという話が出ましたが、中央大学のイメージはどうですか？ 中大は文系だと多摩キャンパスで4年間過ごすわけですが、立地条件を意識した大学選びなどはありましたか？

か？

野村 確かに、交通の便の問題はありますね。

私の中学校は都心の真ん中だったので、たとえ通学路線が事故で不通になっても、違う路線に乗り換えればよかったです。それが今では、モノレールが止まると学校に行けません(笑)。でも、中学校からずっと人ごみの中で生活してきたので、自然の中にある大学がいいなと思ったんです。

岩片 私は生まれたときから田舎に住んでいたのですが、青学の受験に行ったときは、初めての渋谷に驚いて、「こんな大学、行けないや」と思ったんです(笑)。そのためか、中大に来たときに、「あつ、この環境が一番合っているんだな」と感じました。

泉 え、本当にいい？



野村茉莉亜

岩片 いいですよ(笑)。

和合 でも、遊ぶ場所ないよね。

泉 コンビニしかないよ。

野村 何もないよね。

岩片 私は出身が本場に田舎だから…。15分で立川や多摩センターに行けることを考えると、すごい便利です。

泉 それにしても、オレは大学通うために電車を4回も乗り換えるんですよ。

野村 私、5回だけ(笑)。

思惑はずれの履修 受講したいけど…

池内 高校と違って大学は、自分でやりたいこ

とを見つけることが必要なのですが、入学してみて中大はやりたいことを見つけれられる大学だと思いますか？

泉 1年生では見つけにくいのかなと思う。文学部の1年次は必修の講義ばかりです…。他専攻履修という選択肢もあるのですが、自分が興味のある科目は必修科目と重なっていて、履修できませんでした。2年生になれば、変わるかもしれません。

岩片 中大はFLP(ファカルティー・リinker・プログラム)を打ち出していますが、選考があつて全員が履修できるわけではないことに驚きました。思っていたことと違って、自分の希望する職業に就けるのかなと、漠然とした不安は感じます。

滝沢 和合君はやりやすいことが明確なようです。不安は感じますか？

司会 池内真由

和合 そうですね。今は司法試験を意識した講義を履修しています。そういう意味では、今から大学でやりたいことを探す必要がないので、不安は感じません。

今子 私は、やりたいことのひとつに留学があります。中大はいろいろな大学と提携していると宣伝していたので、それも中

大を選んだ理由のひとつです。

「大学全入」ではあるが、 学びのレベルは意識

滝沢 みなさんは、「大学全入時代」を意識したことや、意識させられたことはありますか？

野村 意識させられたことはありますね。大学を選ばなければどこでも入学できるけど、人気のある大学の倍率はそんなに変わらない。これから社会の中心で活躍していくためには、この時代でも倍率が上がっている大学で学ぶことが必要だと、高校の先生から聞かされました。

今子 私が浪人して通っていた予備校は、すごいスパルタの英語の塾だったんです。だから、「どこでも入れるんだから、諦めるな」みたいな(笑)。いつも「全入時代」、「全入時代」と言われた記憶があります。

泉 オレの通っていた高校でも、人気が高い大学に「大学全入時代」は関係ないと言われました。でも、大学では基本的に自分から学ぶわけだから、どの大学に入学しても関係ないのかなと思うこともありますけど。

岩片 でも、学びの差はあるのかと思う。大学によって一緒に学ぶ仲間は異なるわけだから。



やっぱりレベルは違うと思う。入試形態がいろいろ増えてきているのをみても、どこの大学も必死なのかなと思います。

全入時代のPR戦略 「地味」を売りに!

滝沢 では、「大学全入時代」を迎え中央大学は何をすべきだと思いますか？

和合 そうですね。僕はMARCHのなかで中央は地味だと思ってるんです。だからこそPR戦略を考えるべきだと思う。

泉 でも、中央はその地味さを売りにしているのではないの？

和合 いやいや、地味で知名度が上がることはないでしょう(笑)。

岩片 でも、地味だからこそ、私は入りやすかったかな。過度な華やかさがないからこそ、気軽に大学に行ける。

和合 たとえば「中大はMARCHのなかではオアシスです」みたいな売りはどうか(笑)。

池内 それでは中大PRのキャッチコピーを。

和合 「自然がきれい」というところは、売りにしていいと思います。

泉 それは何?自然がきれいだから入学してよ、



と声を大にして言うわけ?

和合 うん、それでもいいと思う。俺は人ごみが嫌いだから(笑)。

岩片 オープンキャンパスで来て、実際に見学して、私みたいに地味な雰囲気が好きだと思う人を集めるのもありかな、と思います。

重要なブランド力 勉強したい学科も

滝沢 みなさんはどんな大学が、入りたいと思う魅力のある大学だと思いますか？

岩片 やっぱりブランドですかね。

和合 それはあるよね。

岩片 いま、他の大学にはない学部、学科を売

りにしている大学がいっぱいありますが、正直、そういう大学に限ってブランド力がないというか。結局、あまり戦略になっていない。ブランドは長年培ってきたものだと思う。

泉秀

滝沢 ブランドの他にはどうですか？

今子 自分の行きたい学科がないとダメです。それが一番重要。大学の名前よりも、自分のやりたいことがあるようじゃないと、私は新聞記者になりたいので、上智の新聞学科に行きたかったです。新聞学科というのは他には日大しかないんです。

滝沢 和合君の場合は法曹界を目指したいと思ったときに、魅力ある大学というのは、ブランドになってきますか。

和合 司法試験を受けるうえでは、「法科の中央」というのはブランドとしてあるわけですし、昔から実績もあります。そういう意味で最終的に中大を受験する決め手になったのはやっぱりブランドだったかなと思います。

集中しにくい大教室 少数で勉強したい

滝沢 ブランド力というのは大きなキーワード

になってくるわけですね。そう考えたときに、中大にはブランド力がある程度あると思うけど、中大がもっと「選ばれる大学」になっていくためにはどうしたらいいと思いますか？

泉 人数を減らしたらどうか、と思う（笑）。人数を減らしたほうが面倒見がよくなるというか…。何せ人数が多いから大教室が引き締まらない。

岩片 文学部も一緒ですね。

泉 大教室もそうだし、やっぱり授業を受ける人数が多いと集中できない。絶対にしゃべる人って出てくるじゃないですか。そう思わないですか？

和合 すごくまじめだな（笑）。

岩片 私も結構勉強したいなって思って大学に来てるんですよ。高校のときは勉強が嫌いだったので、大学ではたくさん勉強したいんです。けど人数が多いと、自分はこれで勉強してるのかな、と思ったりする。

滝沢 大教室の授業は好きではない？

泉 積極的に加わる気にならないというのかな、大教室の授業は。「何か意見ある人」と言われても発言もしにくいですし。

野村 みんなが見ているみたい。

泉 授業によつては少ない人数で、どんどん加

われる討論形式みたいな授業もあるじゃないですか。

和合 ゼミがそんな感じですよ。ぼくはゼミ長なんですけど、人数が少ないから、みんなお互いに早く知り合いになれるというのはいいことだと思います。

泉 そういう授業がいっぱいあると学ぶこともあるし、発言する力も出てくるし、それが大学でやることだと思うんです。みんなは大学4年間をどう意識しているのかな？何をしたいのか？ちよつと聞かせて欲しい。

何をしたいのか？ 見つからない焦り

滝沢 いいですね。4年間で何をなし遂げたいのか？ではまず、泉君から。

泉 オレの場合はとりあえず自分がやりたいことを見つけなければいけないわけです。見つからないせいもあって、訳がわかっていないというか。自分が動けないんです。とりあえずそれを1年の間に見つけて…。

和合 いや、無理して1年の間に見つける必要はないと思うんです。

泉 好きな、やりたい勉強を？

和合 うん。

泉 え、そう？

和合 だって大学2年生とか3年生になってもまだやりたい仕事が見つからないという人も大勢いるわけだし、1年生のうちからそんながつがつする必要はないと思うけど（笑）。

滝沢 焦る必要はないと思うけど、いろいろ見ていくことは大事だよな。

泉 それはあるかもしれない。

池内 やりたいことじゃないからやらない、と言つて、何もやらないのが一番怖いですよな。

泉 それは無いのですが。一番怖いのは第二言語を一番頑張っている自分で…（笑）。結局、や



和合俊祐



りたいことではないけど、やることは、まあ、それにしといてみたいな。だからいま、毎日無駄している感じがして…。

滝沢 今子さんは何をしたいですか？

今子 私も泉君と同じで、哲学に入ったものの、授業は哲学じゃないんですよ。毎日、何してんだろうという感じなんです。高校のときは野球部のマネージャーをやっていて、それで浪人したこともぜんぜん後悔していないんですけど、逆にいま何もしないから、本当にどうしようと毎日焦っています。

やれることをやる！ 情報をしっかり掴む

滝沢 今子さんは、新聞記者になりたいと？

今子 はい。でも社会学とか出版論の授業が、必修と被っていて1個も取れていないんです。だから勉強もできていないし、大変です。

滝沢 和合君は、何をするか明確ですね。

和合 とりあえず1年生の間はキャンパスライフというのを満喫しようと思っています



今子佳奈

す(笑)。進路は関係なしに遊ぶのかなと思っています。

岩片 私は、他専攻を取れなかったけど、教員免許を一応取ろうかなと思っています。自分の考えている将来の道とは違って、いまやれることがあるならとりあえずやりたい。ハンダグリースピリットみたいな…。

池内 中大にはFLPがあるし、大学主催のセミナーなどがあります。大学でもいろいろサポートしていると思いますが、実際にそれをうまく利用できていますか？

野村 できていないです。どうやって利用したらいいかという説明もなかったし…。

池内 情報をしっかりとつかめていないという

感じですね。

泉 どんな情報でも自分から取りにいかなければいけないと思うことが、結構ありますよね。麻疹休講にしてもそうだった。

就職実績で選ぶ ガイドブックで知る

滝沢 ちょっと話を変えて、大学を選ぶときに、卒業後の就職について考えましたか？

野村 考えましたね。中大の学部ごとのガイドブックがあるじゃないですか。そのなかの就職ラッキングを見て考えました。自分が行きたい会社が多い学部はよく見ましたね。

岩片 私は入った専攻が正直、希望ではなかつ



岩片理紗

滝沢 「魅力ある大学とは」というテーマで、話をいただきましたが、最後にこれだけ言っておきたいというのがあれば…。

今子 みんなの意見が聞けて、ひとりだけ焦っているんじゃないというのがわかって、ちょっと楽になりました(笑)。

和合 言っておきたいというか、聞いておきたいことですね、焦っていると言った泉君が何で焦っているのか、いまだによくわからない。

泉 1年生の間で決まっちゃうんじゃない

い、だって。

和合 さっき言ったように、就活を始めてもやりたい仕事が見つからない人も大勢いるわけじゃない？

泉 でもその人はそのときに焦っているわけでしょう。オレも同じになっちゃうんじゃないかなって思うわけ。

和合 その人より君は切迫してないわけでしょう。

泉 今はね。でもいま切迫しないと、まったく同じになるわけじゃない。就活のときにまだやりたい仕事がないよって。だからやっぱり1年のうちに決めておく必要は絶対あると思う。

和合 そうかなあ(笑)。

岩片 私がメディア系に進みたいと言ったら、「えっ、もう決まっているの」みたいなことを言われる。だからみんな結構、やりたいことが分かんずにいるんだと思う。

滝沢 みなさんは、これから4年間の大学生活があります。焦らずに一步ずつできることからやっていくというのが大事かもしれないですね。そうすれば、次第に方向が見えてくるのではないのでしょうか。

きょうは、ありがとうございました。